

力学からの微分幾何学 3

共変ベクトル場=1 形式の線積分

緒方秀教

電気通信大学

June 13, 2023

はじめに

- 共変ベクトル：反変ベクトルの線形汎関数.
- 具体的にどういう関数なのだろう？

今日の内容.

- 一般化力 \mathcal{F}_α で与えられる共変ベクトル場 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha$ について、これが具体的にどういう汎関数を与えているのか、考察する.
- 外力のする仕事が共変ベクトル場 \mathcal{F} の線積分で与えられることを見る.
- 一般の共変ベクトル場 = (微分) 1 形式の線積分の定義.

Contents

- ① はじめに
- ② 共変ベクトル＝線型汎関数
- ③ 1 形式の線積分
- ④ まとめ

Contents

① はじめに

② 共変ベクトル＝線型汎関数

③ 1 形式の線積分

④ まとめ

共変ベクトル＝線型汎関数

拘束を受けて運動する N_P 個の質点系の運動を考える。

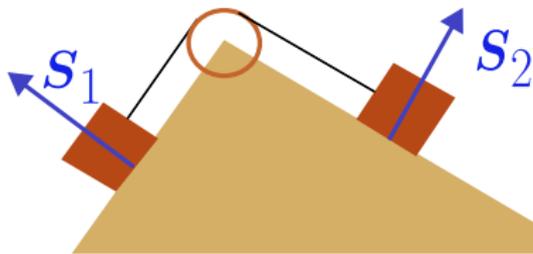
変位ベクトル $r_1 = (x_1, y_1, z_1), \dots, r_{N_P} = (x_{N_P}, y_{N_P}, z_{N_P}),$

質量 m_1, \dots, m_{N_P}

Newton 運動方程式

$$m_i \frac{d^2 r_i}{dt^2} = F_i + S_i \quad (i = 1, \dots, N_P),$$

F_i : 外力 (束縛力を除く), S_i : 束縛力。



共変ベクトル＝線型汎関数

拘束を受けて運動する N_P 個の質点系の運動を考える。

$$\begin{aligned} \text{変位ベクトル} \quad & \mathbf{r}_1 = (x_1, y_1, z_1), \dots, \mathbf{r}_{N_P} = (x_{N_P}, y_{N_P}, z_{N_P}), \\ \text{質量} \quad & m_1, \dots, m_{N_P} \end{aligned}$$

Newton 運動方程式

$$m_i \frac{d^2 \mathbf{r}_i}{dt^2} = \mathbf{F}_i + \mathbf{S}_i \quad (i = 1, \dots, N_P),$$

\mathbf{F}_i : 外力 (束縛力を除く), \mathbf{S}_i : 束縛力.

- 一般座標：運動を記述する N (=自由度) 個の独立なパラメータ q^1, \dots, q^N

$$\mathbf{r}_i = \mathbf{r}_i(q^1, \dots, q^N) \quad (i = 1, \dots, N_P).$$

- 運動空間

$$M = \left\{ \mathbf{r}(q^1, \dots, q^N) \mid (q^1, \dots, q^N) \in D \right\},$$
$$\mathbf{r} = (\mathbf{r}_1, \dots, \mathbf{r}_{N_P}) \in \mathbb{R}^{3N_P}, \quad D \subset \mathbb{R}^N.$$

M 内で完結するような議論をしたい (束縛力 \mathbf{S}_i は考えたくない).

共変ベクトル＝線型汎関数

幾何学的運動方程式（共変ベクトル場の方程式）.

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{q}^\alpha} \right) - \frac{\partial T}{\partial q^\alpha} = \mathcal{F}_\alpha \quad (\alpha = 1, \dots, N), \quad (1)$$

$$T = T(q, \dot{q}) := \frac{1}{2} \sum_{i=1}^{N_P} m_i \left\| \frac{\partial \mathbf{r}_i}{\partial t} \right\|^2 \quad \text{運動エネルギー,}$$

$$\mathcal{F}_\alpha := \sum_{i=1}^{N_P} \mathbf{F}_i \cdot \frac{\partial \mathbf{r}_i}{\partial q^\alpha} \quad \text{一般化力.}$$

- 式 (1) 両辺は共変ベクトル場の成分である.
- 共変ベクトル：線型汎関数 $T_P \rightarrow \mathbb{R}$
 T_P ：点 $P \in M$ における接ベクトル空間.
- では，一般化力 \mathcal{F}_α は具体的にどういう汎関数なのか？

共変ベクトル＝線型汎関数

(拘束条件に従う) 微小変位 $\Delta \mathbf{r}_i$ ($i = 1, \dots, N_P$) を質点系に加えたとき、外力がする仕事。

$$\begin{aligned}\Delta W &:= \sum_{i=1}^{N_P} \mathbf{F}_i \cdot \Delta \mathbf{r}_i = \sum_{i=1}^{N_P} \mathbf{F}_i \cdot \frac{\partial \mathbf{r}_i}{\partial q^\alpha} \Delta q^\alpha, \\ \therefore \Delta W &= \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.\end{aligned}$$

一般化力が与える線型汎関数 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha$

$$\text{微小変位 } \Delta \mathbf{r} = \Delta q^\alpha \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial q^\alpha}$$

$$\mapsto \mathcal{F}(\Delta \mathbf{r}) = \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha = \Delta W. \text{ 微小変位がする仕事}$$

Contents

- ① はじめに
- ② 共変ベクトル＝線型汎関数
- ③ 1 形式の線積分
- ④ まとめ

1 形式の線積分

線型汎関数としての一般化力 \mathcal{F} :

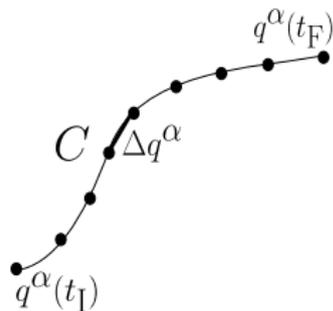
$$\text{微小変位 } \Delta r \mapsto \text{微小仕事 } \Delta W = \mathcal{F}(\Delta r) = \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.$$

微小変化が現れたら、それを足して積分したくなる。

C : 運動空間 M 上の曲線.

質点系を曲線 C に沿って動かしたとき、外力がする仕事.

$$W = \sum \Delta W = \sum \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.$$



1 形式の線積分

線型汎関数としての一般化力 \mathcal{F} :

$$\text{微小変位 } \Delta r \mapsto \text{微小仕事 } \Delta W = \mathcal{F}(\Delta r) = \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.$$

微小変化が現れたら、それを足して積分したくなる。

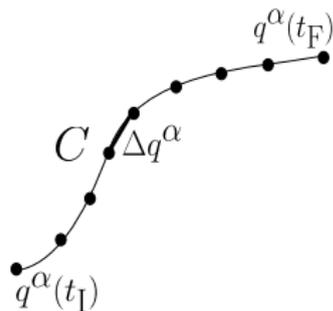
C : 運動空間 M 上の曲線.

質点系を曲線 C に沿って動かしたとき、外力がする仕事.

$$W = \int_C \Delta W = \int_C \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.$$

* 記号 dq^α は $\{\partial r / \partial q^\alpha\}$ の双対基底としているので、積分を次のように表記することがある.

$$\int \cdots dq^\alpha \quad \rightarrow \quad \int \cdots \Delta q^\alpha, \text{ etc.}$$



1 形式の線積分

線型汎関数としての一般化力 \mathcal{F} :

$$\text{微小変位 } \Delta r \mapsto \text{微小仕事 } \Delta W = \mathcal{F}(\Delta r) = \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.$$

微小変化が現れたら、それを足して積分したくなる。

C : 運動空間 M 上の曲線.

質点系を曲線 C に沿って動かしたとき, 外力がする仕事.

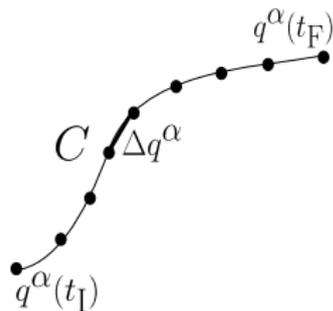
$$W = \int_C \Delta W = \int_C \mathcal{F}_\alpha \Delta q^\alpha.$$

曲線 C をパラメータ表示する,

$$C : q^\alpha = q^\alpha(t) \quad (t_I \leq t \leq t_F).$$

$$W = \int_{t_I}^{t_F} \mathcal{F}_\alpha(q(t)) \dot{q}^\alpha(t) dt.$$

... 共変ベクトル場 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha$ の線積分.



1 形式の線積分

外力のする仕事＝共変ベクトル場 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha$ の線積分

$$W = \int_C \mathcal{F} = \int_C \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha := \int_{t_I}^{t_F} \mathcal{F}_\alpha(q(t)) \dot{q}^\alpha(t) dt.$$

ここで、曲線 C はつぎのようにパラメータ表示している：

$$C : q^\alpha = q^\alpha(t) \quad (\alpha = 1, \dots, N; t_I \leq t \leq t_F).$$

これを共変ベクトル場 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha$ の線積分の定義とする。

【注意】この \mathcal{F} の線積分の定義は、座標変換 $(q^\alpha) \rightarrow (Q^\alpha)$ で不変である、
i.e., 座標変換で $\mathcal{F}_\alpha \rightarrow \widetilde{\mathcal{F}}_\alpha$ と変換するならば

$$\int_C \mathcal{F} = \int_C \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha = \int_C \widetilde{\mathcal{F}}_\alpha dQ^\alpha.$$

↓

これをもとに、一般の共変ベクトルの線積分を定義する。

1 形式の線積分

共変ベクトル場 → これから (微分) 1 形式と呼ぶことにする.

1 形式 (共変ベクトル場) の線積分

- 1 形式 $\omega = \omega_\alpha dq^\alpha$.
- 運動空間 M 上の曲線 $C : q^\alpha = q^\alpha(t) (t_I \leq t \leq t_F)$.
- 1 形式 ω の曲線 C 上の線積分.

$$\int_C \omega = \int_C \omega_\alpha dq^\alpha := \int_{t_I}^{t_F} \omega_\alpha(q(t)) \dot{q}^\alpha(t) dt.$$

この 1 形式の線積分の定義は

- 曲線 C のパラメータ表示の選び方に依らない.
- 座標変換 $(q^\alpha) \rightarrow (Q^\alpha)$ で不変である.

Contents

- ① はじめに
- ② 共変ベクトル＝線型汎関数
- ③ 1 形式の線積分
- ④ **まとめ**

まとめ

- 共変ベクトル＝線型汎関数。
具体的にどういう関数なのか？
- 一般化力：微小変位に対し外力がする微小仕事を与える。
- この微小量を足し算する（有限の変位による仕事）
→ 外力がする仕事は一般化力 $\mathcal{F} = \mathcal{F}_\alpha dq^\alpha$ の線積分で表される。
- 【一般化】1形式＝共変ベクトル場の線積分の定義。

予告

- 1形式の線積分 = ベクトル場の線積分。

$$\int_C \mathbf{A} \cdot d\mathbf{r}.$$

- ベクトル解析に現れる諸々の積分。

$$\text{面積分} \quad \int_S \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}, \quad \text{体積分} \quad \int_V f dV.$$

→ 高次の微分形式（交代多重形式）の積分で表される。